

## スーパーバイザー資料 演習事例 (資料①)

私（田中さん）：社会福祉士。相談支援従事者初任者研修では、同じ地域の主任望月さんについてインターバル実習を受けた。この地域では、ケアマネジメント検証の機会として、すでに実地教育(OJT)が開始されており、地域の相談支援の皆さんと一緒に考えてもらう GSV があることの説明を受けた。

相談支援専門員となり2年目。担当しているケースのことについて悩んでいたところ、主任から G S V のお誘いを受け、参加することに。しかし、G S V の経験が無いので、事前に個別の S V を受け、整理してから G S V に参加することに。後日、私の相談支援事業所に個別 S V のために主任が訪問した。

### 面談の概要(田中さんによる担当ケースの説明と悩みの打ち明け)

#### 【事例の状況】

ナミさん、24歳女性。療育手帳（B2）

初回面談には、母親と共に来所（1年前）。市役所に紹介され、母親がナミさんを連れてきた。面談には、ナミさんも同席。しかし、横を向いていて、話しかけても全く答えようとせず、母親との一方的な面談となる。

#### 【本人の主訴】

「彼氏が欲しい」「お金が欲しい」「うるさい母親から離れて一人暮らしがしたい」

### 【母親の主訴】

娘が風俗で働いている。辞めさせたいが私の言うことを聞かない。どうしたら良いか。

### 【面談の様子】

母親によると「私の娘に障害はありません。学校では、軽度知的障害の疑いがあると、無理やり特別支援学級に入れられました。今でも、学校と教育委員会の対応には不満があります。今は、私と娘の二人暮らしで、夫とは娘が小6のときに離婚しています。私は、市立病院で事務職をしながら、女手一つで一生懸命娘を育ててきました」

### 【母親の語るナミさんの状況】

- ・小学校時代からダンスが得意。人気歌手の振り付けを完璧に覚えることが出来た。
- ・高校は、地元の私立高校になんとか入学でき、母親が送り迎えをして卒業近くまで通ったが、学校でいじめられたことが原因となって退学。しばらくは自宅から外出できない状態だったが、中学時代の恩師に支えられ、何とか外出できるようになった。
- ・駅前のファストフード店に行くことが好き。
- ・一人で過ごすことも多かったが、中学時代の友人と再会し遊び仲間（旧ダンス仲間）になっている。
- ・夜遊びが多くなり、朝方に帰宅し昼間寝て夕方から出かけるような生活となる。
- ・娘の中学時代の恩師に相談したが、体調を崩しており、先生とのかかわりも途絶えた。
- ・娘が自宅に戻らない日が増え、帰宅すると高額なアフセサリーを身に着けているので、

問いただすと、風俗店で働いて買ったと答える。

・風俗店で働くことだけは許せず、お店にも掛け合ったが、辞めさせることはできなかった。

#### 【相談に至る経緯】

ある日、恩師から母親へ電話があり、「市役所に行って知的障害者の手帳の申請をしてはどうか、福祉作業所などの福祉サービスを利用したらどうか」と諭され、市役所に相談に行った。その後、療育手帳（B2）を取得できた。この先の事もあるので、市役所に相談。市役所から紹介されたため、相談支援事業所に無理やり連れて来た。

#### 【家庭の状況】

母親の収入：月18万ほど。生活は苦しい。

ナミさんの収入：答えない。

#### 【SVを受ける前の思い】 ※演習中では「退職します」は禁句

私は、この相談支援事業所では2年ほど働いていて、社会福祉士の資格も取得し、毎日やりがいを感じて仕事をしてきたが、1年ほど前から担当になったナミさんがあまり好きになれず、仕事を続けられるか悩んでいる。